

## 2012年3月期 第1四半期決算 アナリスト向け電話会議 質疑応答摘録

平成23年8月2日  
富士重工業株式会社

**Q：第2四半期の営業利益が第1四半期に比べ、低いイメージがあるので、その解説をお願いしたい。**

A：第1四半期と第2四半期の比較では、特殊要因として、第1四半期にかなり良い要因が出ています。一つは、災害損失による操業の減で、特別損失を57億円計上しています。また、第1四半期はかなり生産が絞られたことで、収益性の良い市場や、国内を中心にバックオーダーをいただいているところで、売上を立てたため、想定以上に収益性が出ました。差し引きで第2四半期は第1四半期に比べ悪くなる印象がありますが、上期100億円の見通しを少しでも上回ることが出来ればと考えています。

**Q：販売環境について、下期、来期に向けての米国販売における、インセンティブについてコメントをいただきたい。**

A：下期に向けて、相応のインセンティブ、販売費を積み増す予定です。そのため、第1四半期107億円、上期が100億円、下期が200億円という営業利益計画のなかで、台数は下期に増やしていきますが、相応に販売費をかけるという前提になっています。しかし、インセンティブをいたずらに上げるということは考えていません。

**Q：原価低減の進捗状況について、解説をお願いしたい。**

A：第1四半期実績、上期は震災の影響で部品の供給確保に購買部門が注力したため、通常原価低減活動の勢いが少し鈍ったところもあります。一方、下期は生産台数の増加により、原価低減活動の効果も出てきますが、原材料高騰による値上げの影響があります。

**Q：原価低減において、下期に市況変動の影響を含んでいるか。**

A：下期にかなりの市況変動の影響が入っています。出来る限り、ニューモデルを投入したときに、原価を下げる活動を進めています。原価低減活動は、5年前、10年前に比べると、ニューモデル投入時の売上構成など、しっかりした原単位で利益が出るように活動をしています。

**Q：営業利益の増減要因の中で、売上構成の詳細を教えてください。**

A：第1四半期3ヶ月の売上構成は、国内が▲2億円、海外は▲268億円、在庫調整等で+80億円です。通期計画の売上構成は、国内が▲42億円で、海外が▲250億円、在庫調整等が+104億円です。

以上